

早稲田医療学園

第一次 中期計画

2020年～2024年

2020年3月

学校法人 早稲田医療学園

はじめに

2020年、学校法人早稲田医療学園はその創設から67年を迎えます。また人間総合科学大学は創立20周年を迎えます。学校法人早稲田医療学園は、その教育理念である「人々の健康と幸福に寄与する人材の育成」をより高度に展開していき、さらに建学の精神「あらたな学問の追求と統合により、真に人間を理解し、自立と共生の心を培い、活力あふれる創造性と豊かな人間性を育む」ことをさらに大きく変化する時代の中でグローバルに展開することを目的にこの学校法人早稲田医療学園中期計画をまとめます。

今回の将来ビジョンは、進みゆく少子化、学齢人口の激減、またグローバル化や社会構造の変化に直面し、危機感を強めている私立大学。大学を取り巻く社会変化、環境変化に対応し、本学の総合的な価値を高め、本学が勝ち残ることを課題に立案されている。この中期計画の背景には、新しい試みに挑戦し、本学の新たな価値を創造しないと社会や受験生や高校、および学生・保護者から、正当な評価・指示を得られない」という大学全体の危機感がある。

そこで、学園の保有する「大学学部」「大学院」「専門学校」の、各組織、課程、コース、事業、実績について、ひとつひとつを精査、「本学の強み」を活かし、育て、最大化を図ることを目的としている。一方、学園全体の弱みとなっている要素は、克服あるいは縮小・スクラップ化を実施していくことになる。

選ばれる人間総合科学大学の、中期計画を策定し取り組むことにした。

その第一は組織力の強化にある。そのために「教育の質の向上」「学生確保」「学修支援」「研究支援」「国際化推進」「キャリア形成」「地域連携・産学官連携推進」「財政基盤の強化」の7つの重点項目を設定。その項目について年度ごとに検証していく。項目達成のために、行動目標、行動計画を設定し、達成度合いによって改定を加えるものとする。

人間総合科学大学 建学の精神

人は、心と身体が相関しており、社会的生き物である。

しかも、有史以来、進化発展を続けている。

21世紀を力強く生きるためには、新しい展望と視座に立って

一人一人がしっかりした価値観を持ち、

未来を切り拓く自己決定能力と勇気を持たなければならない。

ここに、人間を「こころ」・「からだ」・「環境・社会」の面から追求し、

学際的に総合して科学的に探究する必要がある。

人間総合科学人間総合科学大学を創設し、あらたな学問の追求と統合により、

真に人間を理解し、自立と共生の心を培い、

活力あふれる創造性と豊かな人間性を育む

中期計画ビジョンの基本的な考え方

1) 学園の長期的ミッション

学校法人早稲田医療学園の長期的ミッションは、以下のとおりである。

早稲田医療学園のミッション

「人間の健康と幸福を支援する人材を育成する」という使命を持ち、自立できる学生を育む教育環境を目指す。

早稲田医療学園は、70年にわたる医療人教育を行い、長年にわたり医療機関、地域に人材を輩出し、高い評価と信頼を得てきました。

また人間総合科学大学は開学以来、先覚的にオンライン教育を行い、社会人を対象とした教養教育と生涯学習教育の実践の場としての機能を行政機関や企業、さらには地域との連携の中で展開する具体的な活動を行ってきた。

また、下記のミッションにあるように、人間総合科学大学の学問的基盤となる心身健康科学を通して総合的な人間理解とともに高度かつ最先端の知識・技能、実践力を備えた保健医療分野の医療人、食産業分野で専門職を社会に送り出す教育・養成機関としての機能を向上、充実させ、さらに教育・研究活動を世界に向けて展開していくことが当面の課題といえる。

2) 大学の長期的ミッション

人間総合科学大学の長期的ミッションは、以下のとおりである。

人間総合科学大学のミッション

心身健康科学を通して自立と共生の心を育む

心身健康科学 (Knowledge for well-being の創出) …人間のこころとからだの有機的な関連性を科学的に解明しようとする学問領域

自立…自分の足で立ち、自分の頭で考え、自分の心で感じ

自分の命を燃やして生きていく

共生…千変万化の時の中で、万物を慈しみ、感謝し、慎み深く

互いを支えあい、生きる責任を果たす (負う)

日本の社会状況は、生産年齢人口の急減、労働生産性の低迷、グローバル化・多様化の進行など急激な変化の中で、厳しい時代を迎えつつある。特に、少子・高齢社会の到来による諸課題への対応、その中でも団塊の世代が後期高齢者になる「2025年問題」を見通した対応は国レベルの課題であり、とりわけ健康課題、すなわち生涯健康、健康寿命の延伸、QOLの問題などは、本学の教育・研究に密接につながっている。

また、2018年以降、18歳人口が急激に減少するとともに、大学進学率の停滞、進学者そのものの減少、定員の厳格化など、国公私立を問わず、各大学はその存立をかけた改革期を迎えている。

その中で、今回策定した「第一次 中期計画」では、教育・研究上の目的：【よりよく生きるための知恵 (Knowledge for well-being) の創出】を新たに設定し、三つのポリシーを再検証した。この教育・研究上の目的を、法人・大学全体で具体化し、社会的な新たな価値を創造するた

めに、今回の「第一次 中期計画」に於いて、大学共通の「目標達成のための7つの重要課題」を設置した。

この重要課題解決のためには、「全学で教育改革への意識改革と具体的な活動の実践と成果の獲得」「具体的目標に向けた教職員の協働」が、最も重要な鍵となる。その結果として、「大学の社会評価を高め、競争力の強化」を図ることになる。

大学の社会評価を高め、競争力の強化を図る中で、特にこれからは「多様な教育」「グローバルな教育（都市でも地方でも）」「グローバルな教育（世界に通用する）」が本学においても人材養成を実現するために必要となる。

本学ではすでに、学園が培ってきた日本型の医療人教育を、アジアで展開することを目的に東京健康科学大学ベトナム（ベトナム・ハノイ近郊）と学術連携を深め、同国の看護師、理学療法士等の医療人教育の支援を行うとともに、本学発祥の研究領域「心身健康科学」を世界基準の学問へと普及、発展させることを視野に入れながら、同大学の附属病院への支援を開始した。この事業は、教育・研究面での意義と、将来の学園の発展に寄与するという将来的な意味は大きいと考えられる。

3) 第一次中期計画

人間総合科学大学のミッションの実現に向けた課題と目的

第一次中期計画	2020年度～ 2024年度	【課題：大学（企業も）生き残り時代】 少子化＝就学人口の減少への対応 学生確保 大学の特色のより鮮明な確立（競合校に勝つ、強みの表現） 教育の質転換＝新たな価値を、時代社会に問う 心身健康科学の普及・浸透（グローバル展開にも対応） 【目的：組織の強靱化】 ⇒一つの方向に向かった「強い組織」 ⇒時代の流れとともに動く「しなやかな組織」 ⇒教育・研究と経営・運営の両面からの基盤強化「バランスの取れた組織」
---------	-------------------	--

		<p>【新規事業展開】 世界基準の医療人材育成 心身健康科学のグローバル化推進</p>
重点項目		<p>① 教学マネジメント ② 学生確保 ③学修支援 ④ 研究体制 ⑤ 国際化推進 ⑥地域連携・産学官連携推進 ⑦ 財務基盤の強化</p>
実施体制		<p>【統括】 大学マネジメント戦略実行会議 【検証】 IR 室・自己点検評価委員会 【実施】 教授会 各部局教務委員会、各委員会に役割分担</p>
実施概要		<ul style="list-style-type: none"> ・行動目標を設定し、目標達成のために行動計画を設定 ・達成度については、2022 年度「自己点検評価報告書」において検証する

【本学の強み】

医療人教育の信頼性

専門職教育の信頼性

- ・ 70年にわたる医療人教育への信頼（地域、高校教育の現場の声）
- ・ 人間存在の根底にかかわる「心身」「食」領域：学部から大学院に至る専門職・研究職教育の実践

ICT活用&教育の先進性

- ・ オンライン教育（通信教育課程でのオンライン教育の先覚者）の開学以降の実績
- ・ 医療人教育における人間理解を核にしたリベラルアーツ教育
- ・ DX・AI時代に対応した、リカレント教育

学際的な学問の統合化

- ・ 「こころ」「からだ」「環境・社会」からの総的人間理解
- ・ 人間総合科学および心身健康科学の教育・研究成果の発展
- ・ 心身一如 西欧の医療科学と東洋の医療技術の融合化の長年にわたる実績

独自展開の国際性

- ・ ベトナムでの日本型医療人教育・研究の独自展開（東京健康科学大学ベトナム）
- ・ 本学（日本）支援による唯一の医療機関の運営（大学附属病院）

中期計画の実効性

人間総合科学大学では、ガバナンスの実効性を確保する体制を整え、社会や時代の要請に応える組織転換を進めている。

具体的には、学長を委員長とする「人間総合科学大学マネジメント戦略実行会議」が中心となり、学園の管理部門組織となる「理事会」、「学内理事会」、その実務を担う「法人事務局」と連携して教育・研究など事業の策定を行っている。

さらに、この方針やビジョンを教学各部門の委員会、「教務委員会」や「教授会」、「専攻会議」が中心となって実行化できるように、全学的な教学マネジメント体制を構築し、人間総合科学大学の使命・目的及び教育目的を反映したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーおよびアセスメント・ポリシーの徹底を図っている。

また、「人間総合科学大学・大学マネジメント戦略実行会議」内の「インスティテューショナル・リサーチ室（IR室）」が、具体的なデータに基づいたPDCA（Plan Do Check Action）サイクルを稼働させることにより、全学を挙げて着実に実践している。

本学の教育現場では、ICT機器を活用したハイブリッド型授業、遠隔授業をさらに進展させるために、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）化を加速化させている。

以上のことから、人間総合科学大学の使命・目的及び教育目的を反映した学園の中長期的な計画の策定がなされていると判断できる。

学校法人早稲田医療学園 第1次中期計画 重点課題
2020～2024

制定 2020年3月

重点項目	行動目標	行動計画	
① 教学マネジメント（教育の質の向上）	A. 教育研究の目的整備	①教育研究目的の策定と見直し	
	B. 3つのポリシー（AP/CP/DP）の明確化と実質化		①3つのポリシーを点検・評価する体制整備と、教育課程に関する産業界・自治体との連携
			②学修成果の測定ツールの導入（ルーブリック、Logブック）の導入・活用
			③大学全体としての共通の評価方針（アセスメント・ポリシー、アセスメントマップ）の導入・活用
	C. カリキュラム・ポリシー（CP）に基づいた教育の質保証		①履修系統図・ナンバリングの整備・活用
			②授業科目の再編及び時間割等の見直し
			③学修ニーズの把握
			④組織的な教育を実現するための仕組みの構築
			⑤成績評価の信頼性及び妥当性の確保
	D. 初年次教育と教養教育の再構築		①入学前教育、新入生オリエンテーション、基礎力養成などの順次的・体系的な実施
			②全学リメディアル教育の導入と充実化
			③習熟度別クラス・少人数グループ学修の設定（国家試験対策）
			④ピアサポートの質向上と活用、スチューデント・アシスタント（SA）体制の整備と質向上
			⑤全学共通科目の整備（コア科目）
	E. 学生の能動的な学修を促すための取り組みと教育力及び教育の質向上		①アクティブラーニング型授業と学外組織と連携した授業の積極的導入
			②学生アンケート等の有効活用
			③シラバス・チェック体制の充実
			④FD・SDの実施計画の策定と充実
		⑤ラーニング・コモンズ環境整備と活用	
		⑥デジタル教育資材の開発と授業内活用	
		⑦学生及び教職員のICT活用能力の向上	
F. 成績の可視化の拡充	①「GPA」の活用による成績の可視化		
② 学生確保	A. 本学との接触機会の増加	①オープンキャンパスの開催日程、回数の適正化	
		②資料請求者数増加	
		③ガイダンス接触者数増加	
		④進学説明会参加校数増加	
		⑤高校教員接触数増加（高校訪問、進学説明会等）	
		⑥埼玉、東京以外の志願者数増加に向けた取り組み	
		⑦ホームページと受験生応援サイトの充実	
		⑧資料請求者等のフォロー体制とダイレクトメールの活用	
		⑨高大接続強化（出前授業、体験授業の充実）	
		⑩高校生を対象とする科目履修生制度の整備	
	B. 志願者及び入学者の増加	①オープンキャンパス充実（内容、スタッフの質向上）	
		②入試日程の設定（試験内容、出願期間、試験日、締切日）	
		③意欲ある質の高い入学生確保に向けた奨学金制度の検討	
		④入学者選抜区分の整理と区分・意義の検討	
		⑤入学前教育の充実と合格者へのアフターケア	
		⑥入学実績のある高校への積極的な広報活動	
		⑦学力の3要素を踏まえた多面的・総合的に評価する入学者選抜の実施	
		⑧多様な背景を持つ受験者を受け入れるための入試区分の設定	
		⑨入学者の追跡調査の実施と入試制度・広報への反映	
③ 学修支援	A. 担任教員、科目担当教員による学修支援の強化	①担任制度の機能強化	
		②オフィスアワーの明示	
	B. 学生の成長を促す学生生活支援の強化	①学生相談体制（心身両面）の整備・拡充（担任制度、保健室、キャンパス相談室）	
		②1年次前期のサポート体制の強化（修学上の不安や悩み、精神的孤立の解消や居場所づくりの支援、学習支援WGの学修支援の検討）	
		③障がいのある学生への支援体制の構築	
		④自主的な学修を促す環境整備と快適な生活環境の整備	
		⑤奨学金制度の利用促進	
	C. 正課外活動全般の活性化（インターンシップ、国際交流、ボランティア等）	①課外活動全般の活性化	
		②学内諸活動に積極的に関わる学生数の増加	
	D. 授業方法等の取り組みの活性化	①アクティブラーニングの充実化	

重点項目	行動目標	行動計画		
④ 研究体制	A. 全学的な研究事業の構築	①心身健康科学に関する学内共同研究費の活用 ②研究表彰制度(T&M財団) ③学内の教員間交流による共同研究の推進 ④紀要を通した全学的研究事業の公表		
	B. HP等を通した研究成果の発信	①学会誌、ホームページを使った研究成果の発信 ②シンポジウム・研究会・学術集会の開催 ③大学院生の研究指導を通した研究成果の公表促進 ④大学院研究科の論文等指導体制の充実		
	C. 研究活動の促進に向けた研究環境整備	①補助金制度を活用した計画的な研究設備・施設の充実		
	D. 外部資金等の申請・獲得数の向上	①外部資金の募集情報の提供、申請、執行、報告などの支援体制の整備 ②科学研究費補助金の採択率向上に向けた学内制度及び研修体制の設計 ③学外研究者との共同研究による研究分担者として採択件数の増加		
	⑤ 国際化推進	A. 短期留学・海外研修等に参加しやすい環境の整備	①学生の海外研修および短期留学の促進 ②海外からの留学生受け入れ促進 ③語学教育の充実 ④専門領域のグローバル教育の充実 ⑤留学奨学金制度(日本学生支援機構等)活用による促進	
		B. グローバル医療人材の育成・促進	①東京健康科学大学ベトナムとの教職員の交流 ②海外提携校との連携充実 ③ダブルディグリーなど学位認定システムの調査・整備 ④心身健康科学をベースとした教養教育の提供	
		C. 心身健康科学の研究および事業の推進	①心身健康科学の日本・ベトナムの共同研究事業の推進 ②東京健康科学大学ベトナム附属病院研究所との心身健康科学研究の共同プロジェクトの推進 ③教員の海外交流の促進	
		⑥ 地域連携・産学官連携推進	A.地域産学連携センターの活動推進	①定期的な協議会の実施 ②地域連携科目の導入 ③学内外のボランティア活動の推進 ④関連機関との連携した研修会・セミナーの開催 ⑤公開講座の充実 ⑥リカレント・リスキル教育プログラムの提供
			B.地域との連携事業協定の推進	①環境課題解決事業の推進 ②健康増進事業の推進 ③防災・減災・災害対策事業の推進 ④教育連携事業の推進

重点項目	行動目標	行動計画
⑦ 財政基盤の強化 (キャンパス整備計画含む)	A. 財務基盤の強化	①戦略的募集活動による定員充足の確保 ②寄付金収入の拡大 ③戦略的な補助金申請や外部研究資金の採択強化 ④経費支出の適切な見直し(業務の合理化・効率化、省エネルギー対策) ⑤人件費の適正化(多様な雇用形態の導入、学部人件費の設定、人員構成の適正化) ⑥学費・奨学金等の見直し
	B. 経営ガバナンスの強化	①理事会、評議員会、監事及び常任理事会の役割の明確化 ②機能の見直し ③大学教学組織の見直しと意思決定、執行機能体制の強化 ④危機管理体制の強化
	C. 目標の実効化を支援する組織体制の強化	①IRと自己点検・評価の強化 ②事務組織体制の恒常的な強化 ③全学委員会のあり方の検討、クリーニング、強化 ④中期計画の推進と検証のための体制 ⑤中期計画に連動した事業計画 進捗状況の把握及び計画的な実施
	D. 施設・環境の整備	①学修環境や課外活動の制度・施設の充実 ②快適な学内環境の充実
	E. 教員人事制度と事務職員人事制度の見直し	①多様な雇用形態の導入と見直し ②教職員の優れた取り組みを評価する人事考課制度の構築 ③専任教員の学部別定数の決定 ④業績評価制度の充実と給与制度の見直し
	F. 卒業生との連携 情報提供による寄付、大学広報の活性化	①卒業生に対する情報提供の充実